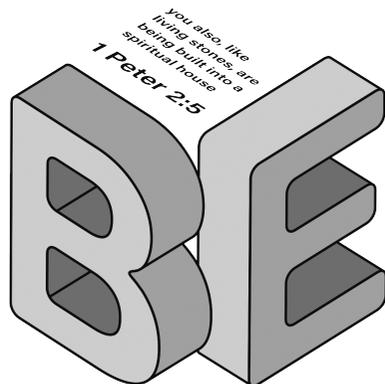


YOUTH MANNA



あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。
(ペテロの手紙第一 2章42節)

2026/2/16(月)

民数記 22:2-20

- モアブは、イスラエルの民の数が多いのを見てどう感じただろう。また、彼らが取った行動はどのようなものだったかな？(3、5-7)
- バラムと神様のやり取りから、神様のみこころは何だったと分かるかな？(9-12)
- その後、バラムはバラクの長に主が語られたことを告げたが、バラクから迫られて「主が私に何か他のことをお告げくださるかどうかが確かめましょう(19)」と伝えた。なぜバラムはもう一度バラクの依頼を受けたのだろう。
★自分の願いや「こうであって欲しい」よりも神様のみこころ、計画を優先し、信頼して歩めるように祈ろう。また、その時に感じる難しさがあれば正直に祈ってみよう。

2026/2/17(火)

民数記 22:21-41

バラムが行こうとすると「神の怒りが燃え上がった。神様はバラムの内にどんな心の思いを見られたのだろうか。昨日の箇所も思い出して考えてみよう。

とても不思議な出来事が書かれているね。ロバとのやり取りを経て、神様はバラムの目の覆いを除かれた(31)。バラムは自分が神様の道を踏み外していたことを示される。僕らも、目が覆われていて自分の罪に気付かなかつたり、イエス様を見れなくなっていることが起こっているのではないだろうか。今へりくだってイエス様を見上げよう。そして悔い改めるところに気付かされたら正直に祈ろう。

2026/2/18(水)

民数記 23章

●みんなの周りでは、占いや呪術的なものが流行っていたり、行われていたりするだろうか？

●モアブの王バラクは自分の望む結果だけを求めて、何度もバラムに「お告げ」を聞こうとしているね。バラクは自分に都合の良い答えだけを求めていて、この世界を治めておられる神様ご自身を知ろうとはしなかったんだ。バラクの弱さは自分の内にもあるだろうか？

●オカルトや占いなどが、神様の前に何の力もないことを覚えよう。ただ神様に心を定めて今日を歩もう！！

2026/2/19(木)

民数記 24章

●バラムは最初何をしようとしたかな？1節

●まじないをしようとしたバラムはバラクに何て言ったかな？13節

この箇所は宿営するイスラエルに、モアブの王バラクがバラムを使って呪おうとしている場面だよ。だけどバラムはイスラエルを呪わず祝福し預言したんだ。バラムは自分のまじないが神様に効かないことがわかったんだね。イスラエルの人たちはバラクが呪おうとしたことを知らないよ。知らないけれど神様が守ってくださったんだ。みんなも見えないところで祈られていたり、神様に守られていることがたくさんあるよ。みんなはあとから振り返って神様おかげだったかもなあと思うことはないかな？

2026/2/20(金)

民数記 25章

荒野の旅の途中、神様はイスラエルに対して怒り神罰を下したので24000人が死ぬという事件が起きた。

●神様はなぜそれほどまでにお怒りになったのだろうか？1-2v

●11-13vを読むとピネハスは神様から「平和の契約」を頂いたね。なぜ彼は契約してもらえたのかな？13v

●神様は「ねたむ神」なんだ。神様を信じると言いながら、この世の基準で歩み他の神を拝むのは浮気しているのと同じ、ということだ。今日は何をすることが「霊的に浮気」しているのと同じになるのか考えてみよう。

2026/2/21(土)

民数記 26:1-56

イスラエルの人々が罰せられて2万4千人が打たれた後に、神様は40年ぶり2回目の人口調査を命じられた。電気も何もない時代に民族の人が何人いるか数えるのはとても大変なことだったって考えられるね。

モーセのお兄さんアロンは亡くなっていてその息子エルアザルがこの調査を担当していたし、ほとんどの部族が新しい世代に入れ替わっていた。罪の裁きゆえに先代が地に飲み込まれた人たちもいるけれど、その子どもたちは神様のあわれみから守られていることも今回の箇所から分かるよ。神様は罪を正しく裁くのと同時に、赦しと恵みを与えてくださるお方なんだ。

神様が私たちにくださっている赦しや恵みってなんだろう？

2026/2/22(日)

民数記 26:57-65

レビ人は他の部族と別に数えられ、生後一カ月以上の男子二万三千人が登録されました。彼らは生まれながらに神様に仕える者として聖別されていました。第二回目の人口調査では人数はほぼ同じでしたが、第一回目の登録者はヨシュアとカレブを除き荒野で死に絶えていました。

神様のさばきの厳しさと同時に、赦しとあわれみにより新しい世代が約束の地へ導かれた恵みを覚えます。私たちもキリストにあって新しくされた者として、神様に信頼し歩みましょう。